

大和市障害者自立支援協議会 第3回定例会 議事録

場 所： 大和市障害者自立支援センター 第3相談室
日 時： 平成20年2月29日 16:30～18:30
出席者： 下記参照

出席者：定例会委員(敬称略、順不同)

佐野文彦(あゆみの家所長)、関水貴浩(福田の里施設長)

元西泰子(大和保健福祉事務所)、前田富生(瀬谷養護学校 地域支援担当)

入岡公司(障害福祉課長)、村尾朗(サポートセンター・花音所長)、目黒裕(松風園施設長)、

星野宗吾(大和市障害者自立支援センター センター長)

事務局

熱田辰雄、笹岡整、坂本勝敏(障害福祉課)

林伸樹、岩淵陽子(サポートセンター・花音、以下花音)、

山田兼右(松風園)、佐藤倫孝(大和市障害者自立支援センター、以下、支援センター)

欠席者：西山誠一郎(教育委員会指導室)、西原毅(県央療育センター 施設長)、

遠藤八重子(社会福祉協議会 居宅介護センターサービス提供責任者)

芳賀康寿(ワークステーション・菜の花 施設長)

内 容：・会長挨拶(支援センター・星野)

・議 題

1. 相談支援事業所の活動報告について

別紙、1(個別ケース活動報告)を基に、地域の課題として共有できる事例等を各相談支援事業所から発表。

- ・事例1 「精神障害のある人(単身生活)のサービス利用支援(前回報告分の経過)」
(報告者：花音・林)
- ・事例2 「知的障害者に対する就労支援『通所施設と相談機関の連携のあり方』について」
(報告者：支援センター・佐藤)
- ・事例3 「不登校になっている高機能自閉症児の相談について」
(報告者：松風園・山田)
- ・事例4 「中途障害者のニーズを満たせる日中活動の場について」
(報告者：支援センター・佐藤)

質疑応答・意見等

- ・個別支援会議には、担当医も参加しているようなので、医療機関の意見も求めながら、支援を行っていくことが大切である。
- ・個別支援会議に家族が参加している事例については、個別支援会議の形として、良い事例として考えられる。

- ・個別ケース報告の中で、専門用語（レスパイト等）が使われているので、なるべく分かり易い言葉（単語）を用いるようにしてもらいたい。

↓

今後の報告では、専門用語の使用について留意する。また、日本語に置き換え辛い単語については、注釈を加えることとする。

※個別事例についての質疑応答等の詳細については、個人情報保護の観点から省略。

2. 部会活動報告

各部会担当者より、別紙. 2（専門部会活動報告）を基に報告を行った。

質疑応答

- ・就労部会（報告者：支援センター・佐藤）

- ・アセスメントシートとしての完成度は高く、一部障害特性による評価項目を加えれば、身体、精神障害者用としても用いることができるのではないか。
- ・評価項目の中での時間の区切り（例：寝坊は3ヶ月に1度程度）について、どういった理由で、このような時間の区切りとしたのか。

↓

企業で働く準備ができているかという視点での質問設定となっており、例として挙げられた寝坊の頻度については、労働者として、3ヶ月毎に遅刻があることは一般的には認められず、働く準備ができていないという判断になるという視点である。

- ・精神障害者向けのアセスメントシートを作成する場合には、知的障害者向けのアセスメントを基に、障害特性（精神状態により、安定度に波があるため、どの状態の時を評価対象とするか等）をいかに加味できるかが、ポイントとなると思う。
- ・精神部会（報告者：花音・岩渕）
 - ・障害児を持つ保護者には、精神的に不安定な方も多いが、障害認定を受けていなくても、フロー図に示されているピアカウンセリングを受けることはできるのか。

↓

「ピアカウンセリング」と「話を聞いてもらうことで安心感を持つこと」は別物である。

似た辛さを持つ人が集まり、困難さを共有することは大きな意味があるので、障害児を持つ親に対しての支援という枠組みで考えていく必要があるのではないか。

- ・精神障害については、本人が自分の病気を理解することが何よりも大切であり、理解をしていく過程については、当事者からの話を聞くことにより、病気についての理解が進み易いことは確かである。但し、ピアカウンセラー育成については、育成過程で病状が悪化してしまうことも多く、育成にはかなりの時間を必要とする。

補足説明：今回検討されたフロー図については、統合失調症の方を対象としたフロー図であり、フロー図内に提示されているピアカウンセリングについても同様である。

・児童部会（報告者：松風園・山田）

・すこやか広場と療育相談の棲み分けについて説明をして欲しい。

↓

療育相談については、障害児とその保護者が対象となるが、すこやか広場については、障害に焦点を当てるのではなく、子育て相談の色を強調することにより、相談しやすい場、早期相談の場とし、その後の子育て支援の方向性についての交通整理の場としていきたい。

・市内数箇所で実施と記されているが、相談支援事業所で実施するということか。

↓

相談支援事業とすこやか広場は別物である。身近な相談場所として、すこやか広場を市内数箇所（例：南、中、北部の3箇所）で実施できればいいのではという意見が部会の中で出された。

・すこやか広場の設置時期はいつか。

↓

平成21年度を想定しており、児童部会（自立支援協議会）からの提言として、障害福祉計画策定委員会に提言していきたいと考えている。

↓

今後も、部会等で検討された課題を策定委員会に提言していくという考えで良いのか。

↓

はい。

3. 相談支援事業利用実績報告（報告者：花音・林、障福課・坂本）

・相談内容について

・会議等が増加傾向にあることについては、ケアマネジメントの要素が強まってきているためである。

・生活全般に関する相談が半数以上を占めていることについては、サービス利用調整後も相談が継続されることが多いためである。

・相談件数について

・児童からの相談が増加傾向にある点については、養護学校卒業予定者への対応があるため、件数が増加している。

質疑応答

・実績報告には、コンパスによる相談対応も含まれているのか。

↓

含まれていない。

・個別支援会議に関する報告が含まれていないが、次回から報告することは可能か。

↓

可能である。

↓

個別支援会議の詳細が分かると、市外機関を含め、連携の全体像が見えてくるため、報告するようしてもらいたい。

↓
次回の報告からは、個別支援会議についての実績報告も行うようにする。

4. その他、質疑応答等

- ・(委託をしていない) 指定相談事業所を市としては、どのように位置づけていくのか。

↓
連携の必要性は感じているが、市として具体的な検討は行っていない。

↓
地域の窓口は多い方が良いと考えるが、相談支援の底上げについて、自立支援協議会で検討していく必要もあるのではないかと。

↓
必要性は感じているので、今後の検討課題としたい。

- ・現在、障害福祉課には、2名の保健師が配置されているが、近隣市町村の配置状況と比較して、保健師数が少なすぎないかと。

↓
ケースワーカーを含めて、配置数が少ないことは承知している。大和市は全般的に職員数が少なく、障害福祉課だけ職員配置状況を厚くすることはできないため即答はできないが、保健師の配置数が少ないことは課題として感じている。

- ・自立支援協議会には、予算がついているのか。

↓
事務局となっている自立支援センターの管理運営費の中に計上されている。

↓
先進地域への視察等を含め、情報収集のために予算を使うことを考えても良いのではないかと。

↓
必要性が認められれば、予算の中で柔軟に対応していきたい。

- ・自立支援協議会の中で、相談支援事業所の評価をどのように行っていくのかということが、今後の課題として考えられるが、どのように評価を行っていくのか。

↓
評価方法については、来年度の検討課題としていきたい。

- ・自立支援協議会の活動報告については、どのように行っていくのか。

↓
自立支援協議会のあり方(当事者の声をどのように反映させるか等)や活動報告については、来年度の検討課題としたい。

- ・入岡障害福祉課長からの情報提供

- ・相談支援事業所の増設予算については、3月議会に上程予定である。予算案が可決されれば、(社福)福慶会に委託予定である。

- ・3月16日(日)13:00～ 保健福祉センターにて、自殺予防対策シンポジウムが開催されるため、ぜひ参加いただきたい。

以 上